

粉じん対策に関する提言について（報告）

1. 経緯

中央区を中心に黒い粉じんが飛来すると苦情が寄せられており、専門委員会の指導をいただき、実態把握と、効果的な削減対策についての検討を行った。3年間の調査結果を踏まえ、今後の対策について専門委員会から提言が出された。

2. 経過

2. 1. 調査研究 降下ばいじん等の成分分析

◇調査内容

- ・ H24年度 吸引捕集による粉じん量の把握、特徴成分の抽出
- ・ H25年度 降下ばいじん量及び苦情宅粉じん調査（秋季～冬季）
- ・ H26年度 降下ばいじん量及び苦情宅粉じん調査（春季～夏季）

◇調査結果

●粉じん量の把握、特徴成分の抽出

- ・ 粉じん量、元素状炭素、鉄、カルシウムなどの濃度は、臨海部で高く、風下の内陸部方面に向かって低下していた。（図 1 元素状炭素(EC)の例）

●降下ばいじん量

- ・ 問屋町、中央港方面や、アリオ蘇我やフェスティバルウオーク方面で高かった。（図 2）
- ・ 垂直分布については、地表付近が高く上階ほど低下していた。（図 3）

●苦情者宅粉じん調査

- ・ 南西系の強風時に多量の降下ばいじんが観察された。元素状炭素とクロムに富むもの、アルミニウム、カルシウムに富み元素状炭素の少ないものなど特徴が確認された。（図 4）

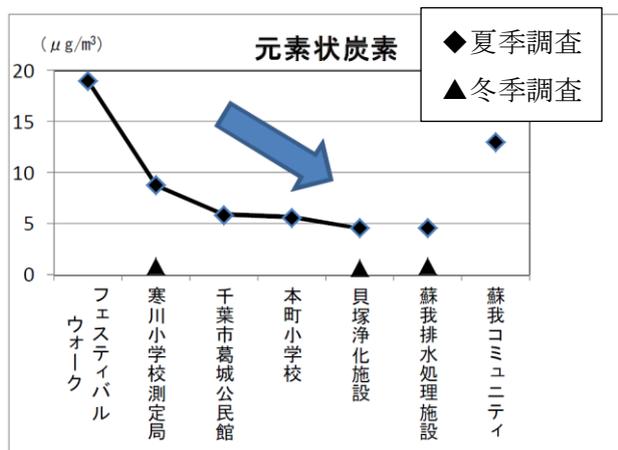


図 1 EC の距離減衰（吸引捕集粉じん）

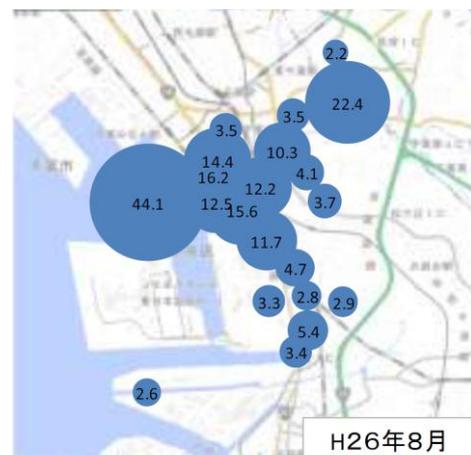


図 2 降下ばいじん量水平分布(t/km²/月)

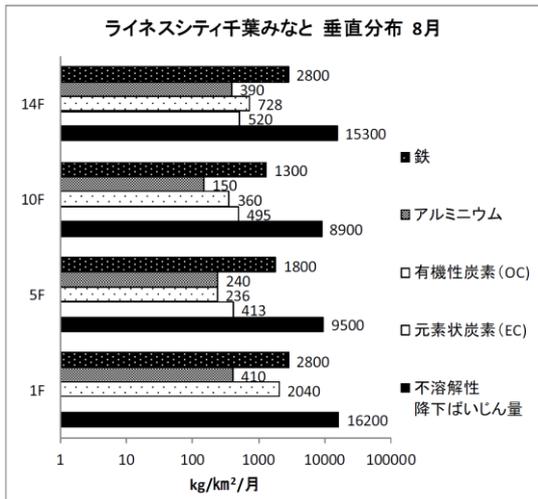


図3 降下ばいじん量垂直分布

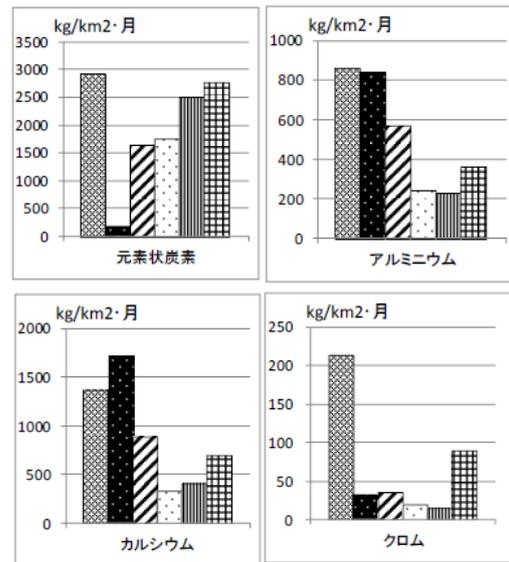


図4 南西風時の地点間比較

2. 2. 市民・事業者・行政が参加した会議（地域コミュニティ）

環境省のパートナーシップ指針に基づき、市民・事業者と、粉じん対策など（苦情状況、事業者の対策、市調査結果、化学物質のリスク評価など）について情報交換を行った。（第1回(H25.6)、第2回(H26.7)、第3回(H27.1)）

2. 3. 大気環境保全専門委員会

専門委員会において、調査や解析の方法、粉じん対策の方向性について検討を行った。（第1回(H25.8)、第2回(H26.10)、第3回(H26.11)）

- ・第1回 市内の粉じんの状況の報告、H25年度調査計画の策定
- ・第2回 H25年度調査結果の解析、H26年度調査計画の検討
- ・第3回 H26年度調査結果の解析、今後の粉じん対策についての提言

3. 提言内容（今後の粉じん対策について）

- ・調査により中央区臨海部の粉じんの特徴が捉えられた。
- ・本地域は降下ばいじんが比較的高く、引き続き監視が必要。
- ・中央区だけでなく、全市的な調査も併せて行う必要がある。
- ・市民にわかりやすいよう工夫した上で、調査結果等の情報発信を行うべき。
- ・市民・事業者・行政が各々の役割・対応について検討を促進させる必要がある。

4. 今後の取り組み

- ・降下ばいじんモニタリングを全市に拡大し、継続していく。
- ・地域コミュニティを適宜開催するとともに、情報発信や対策の検討を継続していく。